国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第12号 (2002年7月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001949

国語研の窓 12号

平成14年7月1日　第12号　発行　独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution :The National Institute for Japanese Language

編集　国立国語研究所普及広報委員会
国語研の窓部会
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530
URL http://www.kokken.go.jp/

もくじ

暮らしに生きることば　1
研究室から：異なる文化とのコミュニケーション　2
解説：若い世代は何を気にしながら言葉を使うか？　4
「国立国語研究所新聞切抜集」目録データベース　5
ことばQ＆A　6
開催案内・開催記録・お知らせ　6
コラム：「ケータイ」メールの表記　7
新刊　7
「ことば」フォーラム in 熊本【ことば探検・ことば発見】8

暮らしに生きることば

現代人は早口

現代人は昔に比べて早口になったと言われています。ニュース番組を聞いていても，民放のアナウンサーなどかなり早口になったという印象を持たれる方も多いのではないでしょうか。早口化は，日本国内に留まらず世界的に見られる現象のようで，せわしない現代社会と関連づけて説明されることが多いようです。

さてこの早口ですが，相手にどのような印象を与えるのでしょうか。早口というと，「せかせかしている」「落ち着きがない」など，あまり良くないイメージがどうしてもつきまとうように思います。しかし，国立国語研究所で行なっている話し言葉研究の中で，早口が必ずしもマイナスのイメージばかりでないことが徐々に分かってきました。

例えば話し方に対する印象として，発話の速い人の方が，より流暢で表情豊かに感じられるのに対し，遅い場合にはたどたどしく単調に感じられる，という統計的な傾向が見られます。また発話の速さは，話し手自身に対する印象にも影響を与えるようです。発話の速い人の方が，より自信があるように感じられる，若々しく元気があるように感じられる，といった傾向が見られました。

このように早口は，単なる現代社会における「悪癖」ではなく，活動的で生き生きとした印象を与える話し方として，多くの人々に受け入れられていると言えそうです。

もちろん，速ければ速い程，聞き手に良い印象を与えるというわけではありません。一定以上の速さになると，一転して否定的な印象を与えることも分かっています。極端な早口はやはり良くないということです。また，早口の方がよりリラックスした印象を相手に与えるといったように，発話のスタイルにも関わってきます。相手や場に応じて表現を使い分けるように，発話の速さにも少し気を配る必要があると言えそうです。

（小磯 花絵）

研究室から　異なる文化とのコミュニケーション

最近，「異文化間コミュニケーション」ということがよく言われます。異なる言語や文化を背景とした人どうしが直接コミュニケーションをおこなう，それが異文化間コミュニケーションです。

異文化間コミュニケーションというと，外国の人とのコミュニケーションを思い浮かべる人も多いでしょう。実際，日本で異文化間コミュニケーションということが言われるようになった背景には，日本人が仕事や旅行で海外に出かけたり，外国の人が日本に来て地域の隣人として定住したりする機会が増えたということがあります。

しかし，外国の人とのコミュニケーションだけが異文化間コミュニケーションなのではありません。たとえば，「最近の若い人は何を考えているのかわからない」という，いつの世にも聞かれる嘆きは，異なる世代の間のコミュニケーションがまさに異文化間コミュニケーションであることを示しています。また，日本の国内でも，地域によって文化や習慣は少しずつ異なります。文化や習慣が異なる者どうしがコミュニケーションをおこなうことは，私たちにとってごく身近なことがらなのです。

異文化間コミュニケーションには誤解や摩擦が起こりがちです。ある場面でどのような行動をとるか，また相手の行動をどのように理解するかが，文化によって異なることがあるからです。

一つ例をあげましょう。国立国語研究所では，日本在住の韓国人（韓国で生まれ育ち，仕事や勉強のために現在日本に住んでいる人30人）を対象に，日本人と韓国人の日常生活でのことばや行動について調査をおこなったことがあります。たとえば，

夫と実母と一緒に食事をしている若い女性が，うっかりソース入れを倒し，ソースがこぼれてしまった。その女性は，とっさに「あっ，ごめん！」と言う。

という場面のビデオを見てもらい，「韓国の家庭で同じことが起きたとしたら，ソースをこぼした人の行動は同じか？」といった質問をするわけです。

このインタビューでは，30人中13人が「違う」と答え，うち８人が「そのような場面では謝らないだろう」と答えました。ソースをこぼして「ごめん」と言わないというのは，日本人の感覚ではちょっと違和感があるかもしれません。しかし，韓国人にしてみれば，「家族や友人のような親密な間柄でいちいち感謝やおわびのことばを言うのは，他人行儀で水くさい」ということがあります。回答の中にも，

・家族なら，すまないと思っている気持ちが言わなくても分かるので言わない。
・（謝ったりせずに）甘えることで，お互いによい雰囲気になる。

といった意見が見られました。

これに似た感覚は中国人にもあるようです。たとえば，中国人の女性と結婚したある友人は次のようなことを言っていました。――「中国の妻の実家に滞在したとき，お姑さんが毎朝早く起きて朝食をつくってくれた。自分としては感謝の気持ちを表したいのだが，『ありがとう』は他人行儀になるので言えない。頭では理解できるが，言いたいことが言えないというのはけっこうストレスがたまる。」――「異文化」を理屈ではなく感覚で理解するには，やはり「慣れ」が必要なようです。

異なる国の人とでも，日本人どうしでも，コミュニケーションをするときには，「自分とは異なるやり方がある」ということを感じる感性と，互いの行動の背景にある考え方を理解しようとする姿勢が必要です。また，そのことは，私たち自身のコミュニケーションのあり方を客観的に見つめることにもつながります。

右に紹介する国語研究所の二つの新刊は，具体的な事例をあげながら，ことばやその背景にある文化の多様性を見つめることの重要性について考えるきっかけを提供するものです。ぜひ一度御覧いただき，それぞれの視点から，ことばや文化について考えていただきたいと思っています。

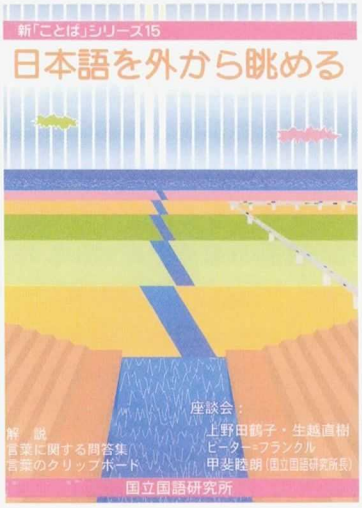
（新「ことば」シリーズ編集刊行委員会　井上 優）
（ビデオ作品制作委員会　熊谷 智子）

新「ことば」シリーズ15

『日本語を外から眺める』（財務省印刷局発行／A5判横組み／128ページ／本体460円）

国立国語研究所編集の「新『ことば』シリーズ」の最新刊です。

シリーズ15からは，関連箇所を相互参照しやすくして，一つのテーマについてよりわかりやすい解説をおこなうために，これまで「解説編」（座談会・解説）と「問答編」の２冊に分けていたものを，１冊にまとめることにしました。「言葉のクリップボード」などのコラム欄も新たに設けました。



座談会「日本語を外から眺める」
（上野田鶴子，生越直樹，ピーター・フランクル，甲斐睦朗（司会））
解　説　・日本語は難しい？（植木正裕）
・日本語を学ぶ・教える（金田智子）
・「異なる文化」とのコミュニケーション（石井恵理子）
・海外で見る日本語（井上優）
言葉に関する問答集（18件）
言葉のクリップボード　　ほかコラム６編

「ことばビデオ」シリーズ〈豊かな言語生活をめざして〉１

『相手を理解する－言葉の背景を見つめると…－』（37分／対象は高校生以上）

本シリーズは，文化庁が昭和55年度から制作してきたビデオ・シリーズ「美しく豊かな言葉をめざして」を引き継ぐ形で，国立国語研究所が平成13年度より制作を始めたものです。

このビデオでは，言葉の使い方やものの考え方の違いから生じる戸惑いを題材として，人とのコミュニケーションにおける想像力や柔軟性の大切さを，ドラマ形式で描いています。

「ことばビデオ」シリーズは，各都道府県の教育委員会を通じて，地域の視聴覚ライブラリー等に配布されます。

導　入
第１話　「すみません」のコミュニケーション
第２話　いきいき方言
第３話　丁寧な言葉はどんなときに？
第４話　ほめるのは難しい
第５話　「あいまいな言葉」の中に
第６話　多様性を見つめて

解　説

若い世代は何を気にしながら言葉を使うか？

若い世代の言葉遣いは，いつの時代でもよく議論の対象となります。しかし，個人の感覚だけに頼らない，地に足の着いた議論をするためには，客観的なデータを基礎にすることが重要です。ここでは，今年刊行された『国立国語研究所報告118 学校の中の敬語１―アンケート調査編―』（三省堂，2002年4月）から，若い世代の言葉について考える材料となるデータを一つ紹介しましょう。

○中高生はどんな場面で言葉遣いに気を使うか

中学生や高校生は，学校生活のどのような場面で言葉遣いに気を使っているのでしょうか？ そのことを調べるために，次の選択肢の中から，「特に言葉遣いに気を使う」場面を３つ選んでもらいました。

1．授業中に先生に指名されて答えたり意見を言ったりするとき。
2．クラス討論で立上がって意見を発表するとき。
3．クラスの中で，異性の同級生と話すとき。
4．部（クラブ）活動で，上級生や先輩に話すとき。
5．生徒会の活動や集会で，討論したり意見を発表するとき。
6．職員室に用事で入っていって，先生と話すとき。
7．部（クラブ）活動で，顧問の先生やコーチの人と話すとき。
8．学校に来た見知らぬ来客に，部屋などをたずねられて教えるとき。

結果は右のグラフのとおりでした。

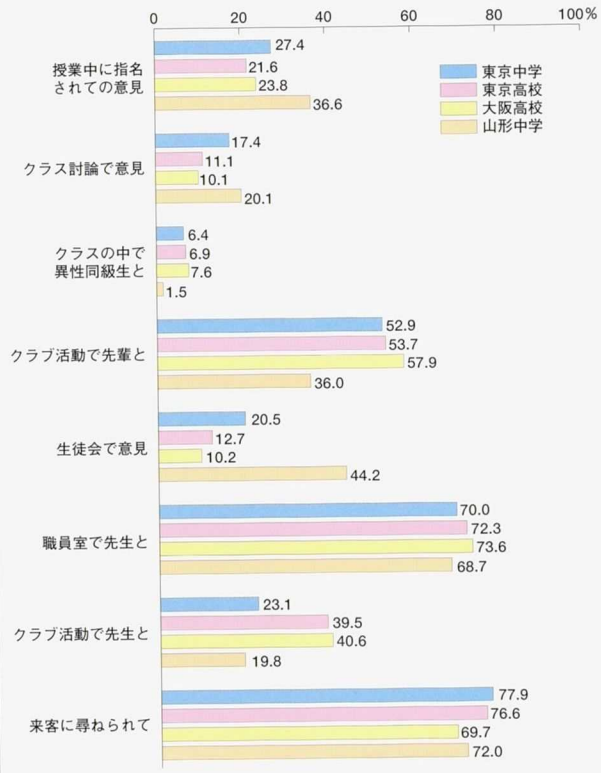
数値が高いのは，**「職員室で先生と」**，**「来客に尋ねられて」**であり，７割～８割の生徒が，上位３つのうちの一つとしてこれらを選択しています。こうした場面は，生徒たちが言葉遣いに最も気を使う場面のようです。

次いで数値が高いのは，**「クラブ活動で先輩と」**です。逆に，**「授業中に指名されての意見」**，**「クラス討論で意見」**，**「クラスの中で異性の同級生と」**，**「生徒会で意見」**は数値が低くなっています。

○言葉遣いのどんなことに気を使うか

この結果を見ると，生徒たちは，「周囲に自分の発言を聞いている人が大勢いる改まった場か否か」という〈場の改まり度〉よりも，「相手が自分より目上か否か」，あるいは「相手が知っている人か知らない人か」という〈相手との社会的・心理的な距離〉の方を気にして言葉を使っていると言えそうです。

地域差も少し見られます。たとえば，**「生徒会で意見」**では，「山形中学」の数値が他よりもずいぶん高くなっています。地域的な表現（方言）が豊かに使われる地域であることを考えると，こうした場面で共通語を使うことへの気遣いも含まれているのかもしれません。



「東京中学」は東京都の中学生，「東京高校」は東京都の高校生
「大阪高校」は大阪府の高校生，「山形中学」は山形県（東田川郡）の中学生。

（尾崎 喜光）

データベース紹介

「国立国語研究所新聞切抜集」目録データベース

○『国立国語研究所新聞切抜集』とは

国立国語研究所では，1949年からことばに関する内容の新聞記事を『新聞所蔵国語関係記事切抜集』として保存しています。これは，戦後50年以上にわたり，「言語」「言語生活」という視点で収集された，日本で唯一の新聞記事資料です。全国紙，ブロック紙のほか，専門紙もカバーしており（ただし1989年以降は朝日・毎日・読売の３紙のみ），記事の範囲も，社会・政治・文化面，論説，家庭・投稿欄など，たいへん広い範囲にわたっています。

○『切抜集』の有効利用にむけて

『切抜集』に収録された膨大な記事（約12万件）は，戦後50年の言語意識や言語生活の変化を知る重要な手がかりになります。私たちは『切抜集』を利用して，

「私たちは，日常生活の中でことばをどのように使っている（使ってきた）か」

「私たちは，ことばについてどのような規範意識や価値観を持っている（持ってきた）か」

「ことばをめぐる社会の状況は，時代とともにどう変わったのか」

といったことを探ることができます。

最近では，商用の新聞記事データベースを利用した記事の全文検索もできるようになってきました。しかし，その多くは1980年代半ば以降の記事が対象です。それ以前の新聞記事については，縮刷版やマイクロ版がありますが，特定分野の記事を探そうとすると，全部の記事に目を通すしかありません。

このような不便を解消するために，国立国語研究所では，『切抜集』の収録記事の「日付」「掲載紙」「見出し」「キーワード」などの情報をまとめた，「『国立国語研究所新聞切抜集』目録データベース」を作成しています。現在，1949年～1998年の50年分については，国語研究所のホームページ上で自由にデータの検索をおこなうことができます。

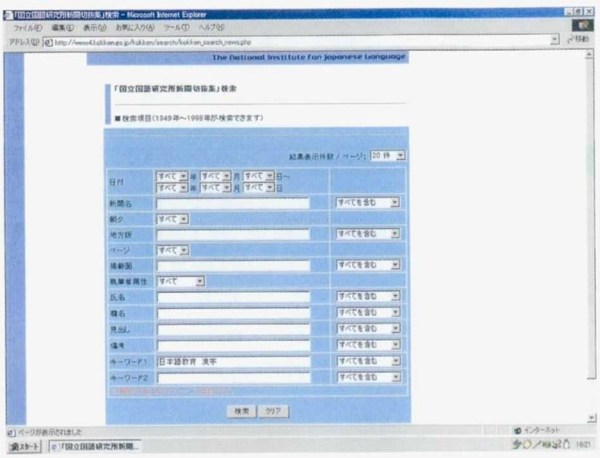
また，コンピュータを使って記事本文を読むことができるように，『切抜集』の収録記事そのものを画像データとして電子化する作業をすすめています。これにより，国語研究所以外の場所での閲覧が可能になり，より広範な利用に資することができます。また，電子化することにより，黄ばみや破れなどの劣化が進んでいる『切抜集』を長期間安定して保存することも可能になります。

○画像化のための著作権処理

もちろん，『切抜集』に収録されている新聞記事にはすべて著作権があり，『切抜集』の収録記事を画像データ化するためには，著作権者（執筆者または著作権継承者，新聞社等）の許諾が必要です。国立国語研究所では，現在，『切抜集』の収録記事の著作権者の連絡先を調査し，記事の利用について許諾をいただく手続きをすすめているところです。

しかし，投書など，著作権者の方と直接連絡をとることが困難な場合も少なくありません。投書は人々の言語意識の一端を直接反映した重要な資料です。私たちは，国語研究所のホームページ上に投書記事の投稿者名の一覧を掲載し，皆様からの情報提供をお待ちしております。『切抜集』という貴重な資料の有効利用のために，皆様の御協力をお願いいたします。

（新聞DB作成委員会　池田 理恵子）



ことばQ&A

Q質問：「医師が患者に薬を与える」ことを「投薬」と言いますが，「患者に薬を投げる」というのは，患者さんに対して失礼ではないでしょうか。

A回答：「投薬」を「薬を投げる」と読めば，確かに患者さんに対して失礼です。医療現場でも，「投薬」のかわりに「与薬」という言い方が用いられているところがあります（参考：「言葉をたずねて（第16回）：「『与薬』—新語誕生の一背景—」『文教ニュース』第1579号）。

しかし，「投薬」を「薬を投（とう）ずる」と読んだ場合はどうでしょうか。この場合は，特に失礼な感じはしませんし，むしろ単に「薬を与える」と言うよりも，「治療のために薬を使う」という積極的な姿勢が感じられるようにも思います。「投～」の形の二字漢語には，「投球」（球を投げる），「投棄」（投げ棄てる）のように「投げる」と読めるものもありますが，「投資」（資本を投ずる，×資本を投げる），「投票」（票を投ずる，×票を投げる）のように「投ずる」と読むべきものも少なくありません。「投入する」も決して「投げ入れる」ことではありません。これと同様に，「投薬」も「患者に薬を投ずる」ことであり，「患者に薬を投げる」ことではないと考えられます。「投」は「投げる」という訓だけではとらえきれない意味を持つのです。

なお，中国では“投薬 tóuyào”と言うと，「ネズミやゴキブリを殺すために毒をまく」という意味になることもあるようです。中国の規範的な辞書である『現代漢語詞典（修訂本）』にも，次のような記述があります（原文は簡体字。日本語訳は筆者）。

【投薬】tóuyào ①給以薬物服用〈薬を与えて服用させる〉。②投放毒薬（多用于毒殺老鼠，樟螂等）〈毒をまく（多くネズミやゴキブリなどを殺す場合に用いる）〉

（井上 優）

開催案内

○平成14年度日本語教育短期研修（第2回）
「対照研究の成果を日本語教育に活かすために」
日時：2002年7月7日（日）13：00～17：00
場所：北海道大学学術交流会館
問い合せ先：井上 優　mainoue@kokken.go.jp

○第11回「ことば」フォーラム in 熊本
「ことば探検・ことば発見」
日時：2002年8月28日（水）13：00～17：00
場所：熊本市国際交流会館
（詳細は8ページをごらんください。）

開催記録

○平成14年度日本語教育短期研修（第1回）
「学習の多様性を探る—学習リソースの再検討—」
日時：2002年6月15日（土）・16日（日）
場所：国立国語研究所

○第10回「ことば」フォーラム
「暮らしの中の漢字」
日時：2002年6月29日（土）
場所：国立国語研究所

お知らせ

NHKラジオ第2放送の**「NHKアナウンサーの はなす きく よむ」**の**「こちら国語研究所」**（年4回）では，国立国語研究所の研究員が言葉の様々なトピックについて解説をおこなっています（放送は第5日曜午後6:20～6:35。再放送は同じ週の水曜午前1:20～1:35と翌週日曜午前7:10～7:25）。

今年度前半の放送予定は右のとおりです。

6月30日（再放送7月3日・7日）
「ことばで人にはたらきかける
～ものの言い方，話の進め方～」（熊谷 智子）
9月29日（再放送10月2日・6日）
「伝統的な方言，若者の方言」（井上 文子）

コラム

「ケータイ」メールの表記

携帯電話の急速な普及に伴って，近年，日本語にも変化の兆しが表れている。友人間で送信される携帯メールでは，字数を減らすために略語が使われることが多い。「明けましておめでとうございます　今年もよろしくお願いします」を若者が「あけおめ　ことよろ」と四音節ずつに縮める会話は，メールにも同様に現れる。

こうすると漢字で表記しにくくなり，平仮名が占める割合が高くなる。携帯メールを十万字分調べると，平仮名だけで五万字を超えており，新聞と比べると平仮名が約20％多く，その分漢字が20％ほど少ない。

口頭では略さないＪＲの「武蔵野線」を「武線」さらに「武」まで短縮して「今、武の中」とするケースもある。これは，携帯電話でボタンを操作して入力するのが面倒なことに加え，携帯メールに入っている漢字変換ソフトが不完全なことも影響して起こった現象である。

「十一時」と変換しようとしたら「獣医知事」，「ダーリン」では「田ー林」と出る機種もあるように，漢字や片仮名が出しにくいため，さらに平仮名の割合が高まる。また，辞書で確認をしないため，携帯メールには個人がうろ覚えしている誤字や，正しいと思い込んで日常的に使っている文字や表記がそのまま現れてしまう。

例えば，「電車がこむ」のように，混雑するという意味の「こむ」の場合，ほとんどが「混む」と入力され，送受信されている。教科書や新聞では「常用漢字表」に従って「込む」と表記される語だが，携帯メールのような個人メディアとソフトでは，校閲が入らないため「混雑」や「混じった」感じに，「混」の「こん」という読みが重なって，むしろ「混む」が正しいと思い込んでいる人が多くなっている。

携帯メールの画面には，手書きよりも活字に近いデザインの文字が出るために，接触し続けることで，それが正しい表記だという意識が強まっていく可能性がある。

（笹原 宏之）

（平成14年1月，共同通信社より全国各紙に配信。）

※このコーナーは国立国語研究所所員が執筆した文章を，発行元の許可を得て転載するものです。

新　　刊

1　日本語と外国語との対照研究Ｘ
『対照研究と日本語教育』
（2002年3月／くろしお出版／A5判横組み／170ページ／本体2500円）

2　新「ことば」シリーズ15
『日本語を外から眺める』
（2002年3月／財務省印刷局／A5判横組み／128ページ／本体460円）

3　国立国語研究所国際シンポジウム
第6～8回専門部会報告書
『東アジアにおける日本語観国際センサス』
（2002年3月／凡人社／B5判横組み／164ページ／本体1800円）

4　『日本語科学11』
（2002年4月／国書刊行会／B5判横組み／170ページ／本体3680円）

5　『日本語教育年鑑2002年版』
（2002年6月／くろしお出版／A5判横組み／524ページ／本体4200円）

6　全国方言談話データベース
『日本のふるさとことば集成－第4巻 茨城・栃木－』（国立国語究所資料集14-4）
（2002年6月／国書刊行会／冊子（A5判横組み250ページ），CD，CD-ROM／本体6800円）

7　『方言文法全国地図』第５集
（2002年6月／財務省印刷局／地図66枚，解説書A5判横組み／688ページ／本体38000円）

「ことば」フォーラム in 熊本 【ことば探検・ことば発見】

共催：国立国語研究所，ＮＨＫ熊本放送局
後援：熊本県教育委員会，熊本市教育委員会（予定）

《第１部》　話しことばの豊かさと円滑なコミュニケーション
《第２部》「ことばビデオ」を活用した総合的な学習

【日　　時】　2002年8月28日（水）午後１時～５時
【場　　所】　熊本市国際交流会館（〒860-0806　熊本市花畑町４－８）
【趣　　旨】・新しい方言，由緒ある方言，あたたかい敬語，さらには外国語まで，共に生きているふるさとの話しことばの多彩な広がりを，参加者の皆さんといっしょに探検し，人と楽しく話をするためのことばのはたらきを再発見します。
・話しことばについて理解を深め，コミュニケーション能力を育てる言語教育を，参加者の皆さんといっしょに考えます。
【対　　象】　第１部：一般の方々，児童・生徒・学生の皆さん。
第２部：小学校・中学校・高校の先生方，一般の方々。
【申込方法】「住所・氏名・電話番号」と「参加希望」（第１部，第２部①，第２部②のうち参加希望のもの）を明記の上，往復はがきまたはファクスで，ＮＨＫ熊本放送局「ことば」フォーラム係（〒860-8602 熊本市千葉城町2-7　FAX：096-359-6163），または下記の国立国語研究所「ことば」フォーラム係まで，お申し込みください。

【プログラム】

《第１部》　午後１時～２時45分
国立国語研究所の調査研究，およびＮＨＫ熊本の「ふるさと日本のことば」の成果を提供しながら，会場の皆さんと「ことば」について話し合います。
（当日は，ＮＨＫ地域情報番組「ひのくにプラザ」の収録を同時に行います。）
★「話しことばの豊かさ
—暮らしのことば再発見—」
★「敬語が豊かなコミュニケーション
—熊本の敬意表現調査から—」
★「外国人とのコミュニケーション」

《第２部》　午後３時～５時
国立国語研究所の「ことばビデオ」を紹介し，それを活用した総合的な学習の実践報告をおこないます。
（次の①②を２つのホールで同時進行します。）
①ことばビデオ『ことば探検・ことば発見』を活用した小中学校の総合的な学習
（定員200名）
②ことばビデオシリーズ『相手を理解する』を活用した高校の総合的な学習
（定員40名）

「ことば」フォーラムの今後の予定

・秋ごろに，2～3ページで紹介した「ことばビデオ」や「新『ことば』シリーズ」を題材としたフォーラムを予定しています（場所は国立国語研究所）。
・「新聞と漢字」をめぐるフォーラムについても企画が進行中です（場所は大阪方面を予定）。

●「ことば」フォーラムに関するお問い合わせ先
国立国語研究所　電話　03-3900-3111（代表）　FAX　03-3906-3530（代表）
電子メール　forum@kokken.go.jp